

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370614

研究課題名(和文) Developing multimodal learning material for Spanish as a foreign language based on the balance of communicative and structural approaches and on the concept of intercultural communicative competence

研究課題名(英文) Developing multimodal learning material for Spanish as a foreign language based on the balance of communicative and structural approaches and on the concept of intercultural communicative competence

研究代表者

Cecilia N Silva (SILVA, Cecilia N)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・講師

研究者番号：40361208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：文献レビューと教材評価をした結果、教材の基礎レベルA1とアクセスレベルA2では異文化間問題の応用が不十分であった。従って理論的枠組みの開発に焦点を当て、教材開発、語学学習におけるコミュニカティブ・アプローチ、異文化間コミュニケーション能力、多様性という4つコンセプトでモデルを設計した。上記に基づき、授業向けにハンドブック出版、ビデオ製作、デジタル教材開発を行った。ハンドブックは言語スキルと学生のレベル、興味、ニーズに応じて多文化・異文化テーマを組み合わせた。ビデオでは西語の多様性と地域の風習をネイティブが紹介して、文法項目を学習しつつ異文化間討論を行うデジタル・アクティビティも計画した。

研究成果の概要(英文)：After literature review and evaluation of current material, we found an insufficient application of intercultural issues in educational material for Spanish at levels Platform, A1 and Access, A2. Thus, we focused on the development of a theoretical framework and managed to design a model based on four concepts: material development, communicative approach in language learning, intercultural communicative competence, and multimodality. Based on the above mentioned theoretical model we were able to print a handbook, produce videos, and develop digital material for the classes of Spanish. The content of the handbook combined language skills with multicultural and intercultural topics adapted to the level, interests and needs of Tohoku University students. We produced educational videos with native speakers to introduce a multiplicity of language varieties and regional customs. Moreover, we designed one digital activity to prompt intercultural discussion using the grammar points in study.

研究分野：言語教育

キーワード：外国語教育 多文化 異文化 マルチモダリティ 教材作成

1. 研究開始当初の背景

2013-2015 期の研究は外国語としてのスペイン語教材の開発を目的におこなった。

教科書は発表素材、アクティビティの材料、文法と語彙の参考資料として活用できる。当然のことながら、教科書は特定の学生集団の需要、特徴、興味に合わせるべきである(カニングワース、1984、1995)。当論文の著者は授業でいくつか市販の教科書を使用してきたが、そのなかで次のような欠点に気づいた。すなわち統一性のない練習問題(主要項目と関係のない語彙が含まれる、一単元に多くの文法事項)、文法とコミュニケーション・アクティビティの適切な組み合わせの欠如、不自然な言葉遣い、「多重知性理論」が考慮されていない、リスニング・アクティビティの欠如、ペースが速すぎて内容過多といったように学習の進め方が不適切、そして文化的項目・アクティビティの欠如といった問題である。さらに、日本で刊行されている教科書の多くは日本人教師が教える文法学習授業向けか、スペイン語話者の教師が教えるコミュニケーション授業向けかのどちらかである(エスカンドン・ゴドイ、2011年)。またA1(初級)レベルの教科書には言語に関連した文化的内容がほとんど含まれない。これに対して本研究論文の著者は、以下のような紙教材と視聴覚・デジタル教材の統合を提案する。a)コミュニケーション・アクティビティと文法練習のバランスのとれた組み合わせ、b)言語学習と言語練習を学生にとってより身近なものにするため、地元(大学、街)に関する内容を教材に盛り込む、c)異文化間・多文化コミュニケーション能力の開発:言語に関する対象の国の文化と学生文化を内容に含め、授業で習った言語素材を使用してこれらの問題を学習できるようにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は二つである。

(1) 外国語の教育及び学習に関する概念、特に文法理解とコミュニケーションの関係、スキルの統合、多様性、多文化・異文化間における能力の研究を行うこと

(2) 上記概念を考慮し東北大学学生のニーズや興味、特徴等になかった教材(教科書、オーディオビジュアル教材、デジタル教材)を作成すること

3. 研究の方法

研究計画は3つのパートに分かれる。1)語学教育、多様な素材、異文化間コミュニケーション能力の組み合わせに基づく理論的枠組みの構築(2013) 方法:文献研究。2)教材開発:ハンドブック(2013) 視聴覚・デジタル教材(2014) 方法:授業における教材の試験的使用、調査、インタビュー、ワークショップの結果を考慮して、教材設計に理論的概念を適用する。3)すべての教材をひとつに統合し、ワークショップでさらにテストして、必要な変更を加えてから学生に配布する。

4. 研究成果

2013-2015 期の主要な研究テーマは次の3つである。a)コミュニケーション・アプローチと構文アプローチを統合した教材の開発、b)多様な視点からアプローチした視聴覚・デジタル教材の制作、c)スペイン語授業のシラバスに多文化問題と異文化間コミュニケーションのアプローチを導入。

教材開発について詳細な文献レビューをおこない、さまざまな観点から理論と実践の要点を統合した。また『タジェール・デ・エスパニョール』(A1レベルの学生のためのスペイン語ワークショップ)と名づけたハンドブックを刊行し、補足として視聴覚教材をつけ

た。主な特徴は以下の通り。

(1) 文法入門と実践。ここでは「新しい言語がどのように構成されているか、文法がどのような働きを持つか、それがどのように系統立てられているか」(ハーマー、1991年、58ページ)を示し、日本語で簡潔に説明して、文型を紹介する。この段階から直ちに実践段階に移り、多くの制約的な練習問題と半制約的な練習問題、作文を課す。日常生活に取り入れられるよう設計された非制約的アクティビティで学生の言語使用を促す。

(2) コミュニケーションの実践。このパートはコミュニケーション・アクティビティを含み、文法練習と自由会話の間に密接なつながりがあることを証明する。というのも、この方法により学生が必要な構文と語彙を確実に練習できるからである。会話練習の内容は初心者向けで、テーマは学校、家族、友だち、街など、現実に即したテーマに限られる。

(3) リスニングの実践。このパートでわれわれは、さまざまな話し方(躊躇、冗長など)や口語表現も盛り込んだ、会話とライティング・コミュニケーションの見本として使えるビデオを制作した。ビデオ(スペイン語を公用語とする複数の国の出身者によるスピーチと会話)はスペイン語の授業での使用を想定したもので、本物の自然なスペイン語に加え、地域バリエーションも学べる。学生の現状(レベル、対象項目、興味)を反映しているだけでなく、スペイン語が実際に使用されている場面をできる限り忠実に再現していることから、このビデオは大きな意義を持つといえる。

(4) 多文化・異文化間コミュニケーション問題。文化と異文化間コミュニケーション能力を教材に導入するにあたって、文化を言語シラバスに導入する目的は何か、文化と言語はどうつながるか、文化のどのような側面を教材に含めるべきかを慎重に検討した(表1)。

表1. スペイン語教材に文化的要素を盛り込むにあたって考慮すべき側面

なぜ?	練習し、言語能力を高め、文化的テーマと関連させるため
どのよう に?	文化的項目を文法の要点と関連づける: 文化的項目を盛り込んだアクティビティ、ネイティブスピーカーが出演するビデオ、スペイン語を話すティーチング・アシスタントとの会話の設計。
何を?	大文字の C 文化(広義の文化): 歴史、文学、芸術、音楽。小文字の c 文化(狭義の文化): プロダクツ(ポピュラーミュージック、民芸品)、概念(信念、価値)、行動(衣食その他の習慣)(トマリンとステンプレスキ、1998年、7ページ)。

ハンドブックと視聴覚教材の内容は東北大学の学生の需要と興味にぴったり合わせた。だが適切に修正を施せば、日本の他大学の A1 と A2 レベルの授業で使用することは可能である。

2013-2015 期は理論と実践の組み合わせと、そのすべての欠陥についての研究も行った。これはコミュニケーション・アプローチ、構文アプローチ、異文化コミュニケーション能力の概念を統合する複合教材の開発に向けての重要なステップだと考えている。記事や学会で教材開発の研究結果を発表したとき、わたしは語学教育への種々のアプローチ、マルチモダリティ、多文化/異文化問題という3つの中心概念のバランスを保つように心がけた。しかしながら、考慮すべき短所が2点あるということはいえるだろう。まず、ハンドブックの全項目に多文化的要素は盛り込まれているが、異文化間コミュニケーションについてはまだ完全に開発・適用されている

とはいいがたい。この問題に関して、語学教材開発の支えとなる異文化間コミュニケーション能力の理論的枠組みを完成させていかなければならない。次に、教材に含まれるデジタル教材の量は十分とはいえ、増やしていくべきである。今後はこの2点に更なる注意を払っていかなければならない。

引用文献

Cunningsworth, A. (1995). *Choosing your Coursebook*. Oxford: Heinemann.

Cunningsworth, A. (1984). *Evaluating and selecting EFL teaching materials*. Oxford: Heinemann.

Escandón Godoy, A. (2011). *La creación de textos ELE según las nociones de "actividad educative" de Davydov y Markova, "orientación completa" de Galperin y "aprendizaje radical" de Hedegaard y Chaiklin*. In Cuadernos Canela, Vol. XXII, pp. 25-33.

Harmer, J. (1991). *The practice of English Language Teaching*. London: Longman.

Tomalin, B. and Stempleski, S. (1993). *Cultural Awareness*. Oxford: Oxford University Press.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

¹ SILVA Cecilia. *Language and culture: a theoretical and practical classroom suggestion for closing the gap*. 「言語と文化：差を縮めるための理論的・実践的授業の提案」(査読済み) *Studia Romanica Posnaniensia* XLIII-4、ポズナン市、ポーランド、2016.

² SILVA Cecilia. *Description of the Spanish Proficiency Test DELE and Brief*

Report on Special Classes for DELE. 「スペイン語能力試験 DELE の詳細と DELE のための特別授業に関する短報」。査読有、東北大学・高度教養教育・学生支援機構紀要第1号。2015、pp.141-152.

³ SILVA Cecilia. *Review: The Handbook of Spanish Second Language Acquisition*. Kimberly L. Geeslin (Ed.). Chichester, UK: John Wiley & Sons, 2014. v+553 pp. 査読有、JALT Journal 第37巻第1号2015、pp.74-77.

⁴ SILVA Cecilia. *Integration of Cultural Issues in the Syllabus of Spanish Classes*. 「スペイン語授業シラバスへの文化的テーマの統合」第64回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会帯広畜産大学。査読有、研究集録、2015、pp.51-59.

⁵ SILVA Cecilia. *Integrating Culture to the Curriculum of Spanish Classes*. 東北大学 「スペイン語授業カリキュラムへの文化の統合」査読有、高等教育開発推進センター紀要第9号、2014、pp.87-97.

⁶ SILVA Cecilia. *Review: Teaching and Researching Language and Culture by Joan Kelly Hall*. 「レビュー：ジョーン・ケリー・ホールによる言語と文化の教育と研究」査読有、東北大学・高等教育開発推進センター紀要第9号、2014、pp.125-128.

⁷ SILVA Cecilia. *Handbook for Beginning Level Spanish Classes*. 「初級スペイン語授業のためのハンドブック」査読有、東北大学・高等教育開発推進センター紀要第7号。2012、pp.135-144.

〔学会発表〕(計5件)

1 SILVA Cecilia. *Bridging the Gap between Students and Textbooks and Integrating Culture in Language Teaching*. 「学生と教科書間のギャップを埋めるためのワークショップ」「文化と語学教育の統合」全国語学教育学会教師による教師のための研究部会セミナー。プレシデンシ大学、ダッカ、バングラデッシュ、2015年9月19日。

2 SILVA Cecilia. *Self-assessment of Speaking and Writing as Factor of Motivation in Foreign Language Learning*. 「外国語学習の動機づけ要素としてのスピーキングとライティングの自己評価」JSET 第31回全国大会日本教育工学会電気通信大学、東京都調布市、2015年9月21～23日。

3 SILVA Cecilia. *Narrativa profesional: herramientas para reflexionar, enseñar y aprender* (Professional Narrative: tools for reflection, teaching and learning) 「専門家の談話: 熟考、教育、学習のためのツール」ASELE XXVI International Conference (スペイン語教育法学会第26回国際大会)グラナダ大学、グラナダ市、スペイン、2015年9月16～19日。

4 SILVA Cecilia. *Development of Educational Audio-visual Material for Foreign Language Classes*. 「外国語授業のための視聴覚教材開発」JSET 第30回全国大会日本教育工学会岐阜大学、岐阜県、岐阜市、2014年9月19～21日。

5 SILVA Cecilia. *Criterios Comunicativos, Multimodales e Interculturales en el Marco del Diseño de Materiales ELE*. (Communicative, Multimodal, and Intercultural Criteria for Developing Educational Material for Spanish as a Foreign Language) 「外国語としてのスペイン語教材開発のためのコミュニケーション、マ

ルチモダリティ、異文化間基準」ASELE XXV International Conference (スペイン語教育法学会第25回国際大会)。カルロス III 大学下ゲタフェキャンパス、マドリード、スペイン 2014年9月17～20日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者 セシリア・ノエミ シルバ
(Cecilia・N Silva)
東北大学・高等教養教育・学生支援機構・講師
研究者番号 40361208